

1880年（明治13）、隅田川で始まった学習院の游泳教育。

その游泳教育を支えてきた施設「沼津游泳場」が、
1912年（明治45）年の完成以来満100年を迎えました。

そこで今回は、
質実剛健の「学習院らしさ」を具現してきた游泳教育の歴史を振り返りながら、
院内各科の担当教員にこの伝統行事の教育的意義をお話いただき、
また実際に参加した卒業生や、指導にあたった学習院沼津游泳会の方々から、
忘れがたい思い出やそこで学んだことについて語っていただきました。

安全な環境を守るための施設改修状況についてもあわせてご報告いたします。

特 集

沼津游泳場100年



沼津游泳演習の動画は下記のURLよりご覧いただけます。

 <http://www.gakushuin.info/tv/>

沼津游泳場100年 学習院の游泳演習の歴史

学習院の沿革とほぼ重なるほどの長い歴史をもつ游泳教育。そして、沼津游泳場は、1912年の落成以来、学習院生の泳ぐ技術向上のみならず、心身の成長を見守ってきました。

このコーナーでは皇族も参加された伝統の游泳演習に関連したさまざまなできごとを振り返ります。

- 1877年 (明治10年) 神田錦町にて学習院開業
- 1880年 (明治13年) 隅田川の下流、両国の中洲にて、
游泳演習開始 **Topics 1**
- 1891年 (明治24年) 游泳演習場を神奈川県片瀬へ移転 **Topics 2**
- 1892年 (明治25年) 小堀流踏水術七代目師範
小堀平七が游泳師範として招聘される
※ Column 2参照
- 1905年 (明治38年) 片瀬の游泳寄宿舎が完成
- 1907年 (明治40年) 乃木希典が第十代院長に就任。
翌年、和船を一艘寄付(「櫻朶丸」) **Topics 3**
- 1912年 (明治45年) 沼津游泳場寄宿舎が落成 **Topics 4**
- 1913年 (大正2年) 沼津での游泳演習開始
- 1937年 (昭和12年) 女子学習院の游泳演習開始
- 1942年 (昭和17年) 太平洋戦争突入により、游泳演習中止
- 1946年 (昭和21年) 中等科の沼津游泳演習が小規模な形で再開 **Topics 5**
- 1949年 (昭和24年) 初等科と女子の中等科・高等科も沼津游泳演習を再開
- 1955年 (昭和30年) 高等科1年全員参加を義務づける
(1991年に中止し、現在に至る)
高等科において水泳部員を助手として採用
- 1960年 (昭和35年) 女子部において、初めて卒業生が助手に採用される
その後、大学生も加わる
- 1965年 (昭和40年) 中等科1年全員参加
(現在は全学年希望者の参加)
- 1969年 (昭和44年) 初等科6年希望者のみ参加
- 1974年 (昭和49年) 女子中等科2年全員参加
(2012年度は2・3年希望者の参加)
- 1986年 (昭和61年) 沼津に鉄筋2階建ての食堂完成 “櫻朶館”
さくらだかん
- 1990年 (平成2年) 防潮堤完成(静浦→牛臥) **Topics 6**
- 2012年 (平成24年) 沼津游泳場寄宿舎改修
※詳細はP12をご覧ください。



Topics 1 隅田川の下流、両国の中洲にて、 水泳演習開始(1880年)

初代院長 立花種恭のもと、開業の3年後には游泳演習が始まりました。第二代院長 谷干城は「学習院第八年報」の序にて武課、剣術、柔術、馬術とともに、游泳演習は“強壯健康ノ体軀ト活發有為ノ精神トヲ養成スル”ことを目的とすると述べています。1890年(明治23)まで、ほぼ毎年同所で行われ、学習院規則により随意科として中学科の課程に加えられました。



Topics 2 游泳演習場を神奈川県片瀬へ移転(1891年)

水質および水流の観点から演習場を片瀬へ移転し、4週間にわたって游泳演習が実施されました。

参加学生は満10歳(初等学科五年級)以上の希望者としました。游泳演習のほか、名勝旧蹟を見学して教官は歴史地理の臨地講話を行い、有志学生は富士登山も試みました。



Column 1

乃木希典(1849.11.11~1912.9.13)



1907年(明治40)、第十代学習院長に就任しました。

教育方針として、それまでの知育偏重の教育を排し、高尚なる人格を陶冶して、知徳あいまった人物を養成することを教育の主眼としていました。

そのため中等科・高等科が全寮制をとっていた当時、自ら率先して寄宿舎で起居し、その日常生活における一挙一動を範として示し、寮生の指導にあたりました。

その際に使用していた総寮部の二室は、現在も「乃木館」(国登録有形文化財)として保存されています。

游泳演習においても、天幕での生活は学生の精神修養上多大な効果があると考え、自らも学生とともに天幕に宿泊しました。



Topics
3

第十代院長 乃木希典が
和船を寄付 (1908年)



乃木院長は、游泳演習の余暇に学生に和船の漕ぎ方を教えるため、3～4人乗りの和船を一艘寄付しました。この船は院長の好意を記念するため、学生の提案により「乃木」にちなんで「櫻朶丸」と命名

され、また、1909年(明治42)にも同様の船が寄贈され「満珠丸」と名付けられました。

この操艇の練習は、大正時代に入り本格的に行われるようになり、現在も続いています。

Topics
5

戦後の游泳教育の再開
(1946年)



太平洋戦争の激化によって中断していた沼津游泳演習は、1946年(昭和21)に中等科で戦後初めて小規模な形で再開されました。その後、初等科と女子の中等科・高等科と再開が続き、1955年(昭和30)には高等科1年全員の参加が義務付けられました。

男子の禰着ひたひ用が復活したのもこのころです。禰は、緊急時には背面のT字になった部分をつかんで、水から引き上げることができるという利点があり、安全に配慮した指導を行うことができます。女子参加者は水着の上から腰にさらしを巻くこととしました。また、水中で目立つ色として赤が選択されました。

Topics
4

沼津游泳場寄宿舍 落成
(1912年)



片瀬の游泳場周辺は年々発展し避暑客が増えたため、学生の風紀上好ましくない環境となり、演習場の移転が計画されました。候補地として、房総半島や小田原、三浦半島なども調査されましたが、最終的に沼津

への移転が決定され、総建坪約480坪の寄宿舍が落成しました。

演習は二期に分けて行われ、前期は初等学科6年全員に加え、高等学科・中等学科・初等学科5年の希望者、後期は、高等学科・中等学科6年の希望者が参加しました。

Topics
6

防潮堤の完成 (1990年)

津波対策として、沼津市により静浦～牛臥間が整備されました。これまで毎年の事前準備では、脚立あしだて*や和船は人の手によって倉庫から海まで運ばれていましたが、防潮堤ができたことにより、クレーン車を用いて運ぶようになりました。

*脚立は、飛び込み台や泳ぐ児童・生徒の見張り台になります。



Column 2

小堀流踏水術とは…

小堀流むらおかいだゆうまさぶみは村岡伊太夫政文を祖として、1700年頃から伝わる日本泳法です。「手繰游たぐりおもよぎ」を基本とし、立游たちおもよぎを得意とする泳法で、有名なものには「御前游ごぜんおよぎ」*があります。現在、熊本・学習院・京都・長崎に伝統を保ち、佐賀・青森でも行われています。

小堀流では「潜泳」という潜水の泳法以外は、すべての泳法に「游」という字があてられています。「游」という字には「水の上を泳ぐ」、「泳」という字には「水の中を泳ぐ」という意味があります。そのため、学習院では沼津の施設を開設したときには「沼津游泳場」としました。

小堀流踏水術はもとも川泳ぎの流派です。通常川泳ぎの泳法というのは、川の中で戦闘を行うことはあまり想定されていません。しかし、小堀流は深い川や海で敵と相対して戦闘ができるようにと立游を基本としています。地を踏むように水を踏んで進む、ということに由来し、「踏水術」という名前がつけられました。また、学習院の場合は「手繰游」の泳法について、七代目師範の小堀平七が「長時間団体で泳げるように」疲労感の少ない両踏み足の平泳ぎにすると決め、現在の泳法を指導しています。



* 藩主の御前や式泳として游がれたためこの名がついた。
「艶游つやおもよぎ」ともいわれる。



思い出インタビュー

沼津游泳場100年を振り返り、沼津游泳教育にかかわりの深い5名の方々に思い出を語っていただきました。



先輩から後輩へとつながる沼津

学校法人 学習院 募金部 部長
沼津游泳会 代表

いけだ けんじ
池田 賢司

沼津游泳教育を支える「游泳会」

游泳会ができて40数年がたちますが、これは以前から各科游泳行事に参加していた助手を組織化するために、私が大学1年生の時に発起人となって、各科の先生方、先輩方のご協力を得て立ち上げました。当初30名程度だった游泳会も現在では300名を超え、日本泳法の資格取得者も11名ほどいます。

游泳会に入るには、海での泳ぎを経験していることが前提です。そのため、男女両高等科時代に助手として参加した経験がない方にはご遠慮いただいています。しかし小堀流を習いたい方は、今も皆さんと一緒に稽古をしています。中には自分が完泳したことで、後輩たちに教えたい、この感動を伝えたい、のちに助手の資格を取り、参加するようになった会員もたくさんいます。これは私たち游泳会にとって、とてもうれしいことです。

また、游泳助手以外に脚立入れや杭打ちなどの事前準備や和船の手入れを含む後片づけも行います。重いものばかりで大変だと思うのですが、みんな楽しそうです。

その上、初等科は最後に子供たちが寄せ書きをくれるのです。「先輩のおかげで2kmの距離泳を完泳できました。ありがとうございます。ぼくもおおきくなったら先輩のように助手になりたいです」と。これをもらうとうれしくてやめられなくなりますよ。

以前、他校の先生が見学に来た際に「これだけの施設と設備、組織があるのは日本中を探しても学習院以外にないでしょう」と驚いていました。このことは我々も誇りに思っています。

山林で木を選ぶことから始まる和船づくり

現在使っている木造の和船は、最初に乃木院長が提供してくれた「櫻朶丸」という和船を踏襲しており、現在の和船も桜の印が刻まれています。船大工の職人の方に山林で木を選ぶところからお願いし、1年という歳月をかけてゆっくりと形をつくるのです。

ろづか
櫓柄が壊れたりすると職人の方に修理をお願いしていますが、近年職人さんが減ってきていることが悩みの種です。

沼津游泳教育が日本泳法に興味を持つきっかけに

生徒として行ったときはやはり先輩方に憧れましたね。私も卒業したらああいうふうになりたいと。そして後輩を教えたいと思いました。それが一貫校のいいところではないでしょうか。

沼津游泳教育のおかげで、私は日本泳法に興味を持ち始めました。小堀流踏水術は当時中等科の水泳部顧問だった十代目師範の猿木先生に直接習いました。日本泳法というのはどちらかという型が重要で、年をとればとるほど、泳ぎが華麗になるものですね。

また、先代の師範の教え方は、「見て盗んで覚える」というものでした。その時代や地形、波、潮の流れに合った泳ぎをしなければならない。それを臨機応変に考えなさい、ということです。おかげで自然の海に対してどうやって泳ぐのか、ということも学びつつあります。

海でなければわからないこともたくさんありますから、この行事は大変重要です。また、先輩が後輩を教えながら続いていくというのがこの行事のよいところでもあります。現在の学校教育ではこういう行事が減っていますから、なおさらこの伝統行事は続けて欲しいと思っています。

